

■五姓田芳柳 絵師, 工房経営者。幕末にいち早く西洋画を取り入れ, 息子義松はじめ, 明治初期の洋画家多数を育成。

ごせだほうりゅう

日本外史・1827= 江戸赤坂の紀州藩邸で, 下級武士浅田富五郎の子に生まれる。幼名は岩吉。

鼠小僧磔・1832= 5歳: この頃, 母が死去。

天保大飢饉始1833= 6歳: この頃, 続いて父も死去し, 本多庄兵衛の養子となる。_義理の祖父の影響で絵に関心を持ち始める。

・ ・ ・ ・ ・ 1836= 9歳:

大塩平八郎乱1837=10歳:

勸進帳初演・1840=13歳: この頃, 義父とともに久留米藩士猪飼藤兵衛と養子縁組, 源次郎と改名,

_早くから, かなりの変人ともみられていて,

順天堂始・1843=16歳: この頃, _仕事上の喧嘩でかっとなったらしく, 家出。浪人となって, 諸国を回りながら, 絵画修業, この間, 伝次郎と改名。_歌川国芳に入門し, “芳”の字を貰って, のち芳柳と名乗ったともいわれ,

阿部正弘首座1845=18歳:

・ ・ ・ ・ ・ 1848=21歳: この頃, 養家と仲直りし_江戸に戻る。

この間, 浅草に住し, 薩摩藩士井上逸作に仕えながら, _狩野派の樋口探齋門に学んだともいわれる。

万次郎帰国・1852=25歳: 長崎に赴いたか。また, この頃には絵師として独立する程度に技術的に達成したのかもしれない。

ペリー来航・1853=26歳: 義父の同僚久留米藩士森田弥左右衛門に乞われて, 婿養子となり, 次女勢子と結婚。森田弥平治となる。

開国開港・1854=27歳:

安政大地震・1855=28歳: 次男義松が誕生。

松下村塾・1856=29歳: 長女勇(のちの渡辺幽香)が誕生。

安政の大獄・1859=32歳: _開港直後, 遅くとも数年のうちに横浜に赴き, 西洋人と交わったらしく, 「西洋老婦人像」が残る。

桜田門外変・1860=33歳:

遣欧使節・1861=34歳: この年, 歌川国芳が死去。イギリスの絵入り週刊新聞のイラスト作家ワグマンが来日し, 横浜に拠点。

薩摩藩士密航1865=38歳: *次男義松の絵の才能を見出し, 西洋人から直接絵画技術を学ばせようと, ワグマンに入門させ,

薩長同盟・1866=39歳: 次女登女(のちに2世芳柳の妻となる)が誕生。

大政奉還・1867=40歳: 藩に戻る途中の義父森田弥左右衛門と出会い, _維新の動乱のさなか, 義松の修業をかねて, 商人や豪農から注文をとって絵を描く出稼ぎの旅に出, 「道中旅日記」をつけながら,

明治維新・1868=41歳: _京都を間一髪で脱出, 大坂城炎上も目にして江戸に帰る。維新となったのを機に, 新しい苗字にしようと, 自らを育ててくれた5つの家になんで, “五姓田”と改姓。

戊辰戦争終・1869=42歳: この頃, 義松が横浜に移住, 息子についていくと決めた妻勢子の勧めで, 松井豊子を後妻とする。

学問のすすめ1872=45歳: この年, 山本芳翠が来訪, 飾っていた横浜絵に感心して洋画に転向, 入門して芳翠と号する。義松に同行して, その師ワグマンの西洋画にも触れ, 洋画家として飛躍して行く。義松が分籍して独立。_自らは西洋絵画技術はマスターできなかったが, 描写力に優れ,

明治6年政変 1873=46歳: *明治天皇が横浜に行幸した際に自分の屋敷に滞在することになって感激した高島嘉右衛門からの依頼で, 「明治天皇御尊影」を描いて有名になり, 義松一家含む家族, 弟子ら全員が東京に結集,

佐賀の乱・1874=47歳: *宮内省の命で「明治天皇像」を描いて, 一躍“洋画元祖”の地位を得り, 浅草寺境内で{油絵見世物興行}を開催。変人ではあったが, 高潔かつ豪放磊落な性格もあって, 以後, 全国から弟子たちが集まり, 一大工房に発展, 肖像画制作で稼ぐべく, 工房の広告を頻繁に出して, 注文をとるなど, 経営にも怠りなく,

初の民間工場1875=48歳: {横浜毎日新聞}に, _義松を薄給で陸軍士官学校教師として勤めさせたと, ワグマンが激怒した記事‘痴父才児ヲ損ズ’が掲載される。描写力を買われて, 陸軍獣医学校でフランス人教師の授業の図解雇いとなり,

三つの反乱・1876=49歳: 現存最大の作品「馬図」などを描く。

西南戦争・1877=50歳: _続いて, 大阪の陸軍臨時病院の雇となり,

・ ・ ・ ・ ・ 1880=53歳: 義松が渡仏してしまったこともあって, 弟子の倉持子之吉(五姓田芳雄)を養子とする。

明治14年政変1881=54歳: _「西南役大阪臨時病院負傷兵施術光景」など生々しい記録写真画も描き,

新体詩抄・1882=55歳: {光彩舎}を起こす。

内閣発足・1885=58歳: 北関東から上越, 北陸方面へ漫遊する。

帝国大学始・1886=59歳: 「神城之昇旭」,

国民之友始・1887=60歳: {郵便報知新聞}に, 初代が芳柳号を2世に譲り, 柳翁と号するという記事が掲載, すなわち*引退し,

初の対等条約1888=61歳: この年, 娘渡辺幽香が銅版画集を刊行, その一枚に絵を描いている姿が描写されている。

帝国憲法発布1889=62歳: 娘渡辺幽香による「初代五姓田芳柳像」。「恵比寿・大黒天」,

帝国議会始・1890=63歳: 義松とともに渡米するが, 自分は, すぐに帰国。帰国後, 体調不良になり, 眼病に悩まされ,

大本教・1892=65歳: _没した。実質的に, 五姓田工房は解体。弟子たちは, 不同舎ほかに別れる。